

令和 6 年度大阪府南河内在宅医療懇話会における主な意見（概要）

開催日：10 月 30 日 場所：南河内府民センター 3階 講堂

1 南河内圏域における連携の拠点等の取組状況について

○急変時の対応について、特に訪問看護師は重要な役割を担っていると思う。会議において、市域を超えた訪問看護ステーションなど、どこまで参加を依頼するか悩んでいるので、意見をいただけないか。

（意見等）

○訪問看護ステーションとしては、市域が離れていても依頼があれば会議には積極的に参加したい。

2 各圏域で議題にした内容に関する意見

【南河内圏域高齢者施設等における ACP 普及の現状把握について（調査結果）】

○延命しないと決めていたが、家族が苦しんでいる利用者を目の前にすると救急要請することもあると聞いたことがある。

○普段介護している家族内で意思統一できていても、遠方に居住している親族の意見で変わる場合もある。一旦、同意が取れていても、周囲の状況で変わることもあり、ACP の深いところだと感じている。

○在宅医の立場でいうと、がんの末期や経口摂取できないなどの最終段階の患者については、緩和ケア病棟の面接を行っているかどうかについて確認している。自宅で終末期を迎えるにあたり、自宅で最期を迎えたいと希望される方が多いが、家族の疲れも含めてホスピスケアされるかどうか話している。はじめからはっきり示していなくても、途中から在宅となる方もいる。どんどん考え方や受け止め方が変わるので、家族にしっかり説明するようにしている。

その他

意見なし